

水田から流下したホンモロコ稚魚の移動について

岡本 晴夫・氏家 宗二

1. 目的

琵琶湖の周囲の内湖は、コイ科魚類の産卵繁殖場として、また、仔稚魚の育成場所として機能していた。しかし、現在では、外来魚の繁殖と在来魚の減少により、その機能は低下していると考えられる。そこで、内湖が本来持つ在来魚類の育成機能の回復を目的として、県内最大の内湖である西の湖に隣接する水田に ALC 耳石標識を付けたホンモロコのふ化仔魚放流を行い、稚魚の移動について調査を実施した。

2. 方法

西の湖に隣接する水田（常楽寺地先）に、平成 25 年 5 月中下旬に ALC 耳石標識を付けた 2 日齢のホンモロコの仔魚を収容し約 1 ヶ月間育成後、水田の中干し時に稚魚を流下させた（図 1）。その後、6 月 21 日から 8 月 20 日まで西の湖および周辺水域において、ビームトロール網による採捕を 9 回実施し、稚魚の動向を調査した。また、10 月 11 日～11 月 18 日にかけて 6 漁協（朝日、彦根市磯田、能登川、堅田、三和、今津）の刺網によるホンモロコ漁獲サンプルを調査し、標識の確認を行った。



図1 ビームトロール調査定点およびホンモロコふ化仔魚収容および流下状況

3. 結果

水田からの流下直後の 6 月 24 日に流下場所付

近の水域で標識魚が多数採捕され、かつ、西の湖一円に分布し（図 2）、約 1 ヶ月後の 7 月 21 日には、ほとんど採捕できなくなった（図 3）。また、刺網による漁獲サンプルを調査した結果、広く琵琶湖内に分布していることが確認された（図 4）。

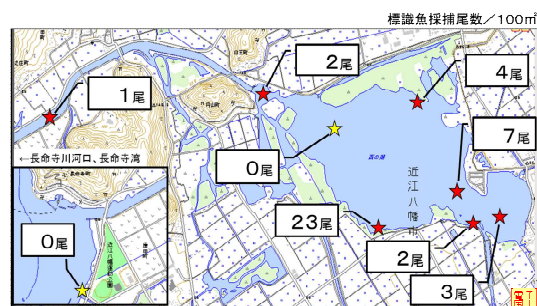


図2 ビームトロールによるホンモロコ標識稚魚採捕状況(平成25年6月24日)

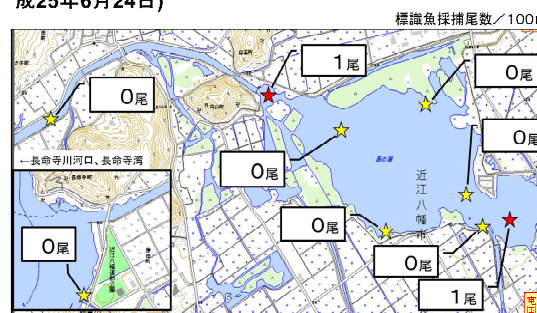


図3 ビームトロールによるホンモロコ標識稚魚採捕状況(平成25年7月21日)

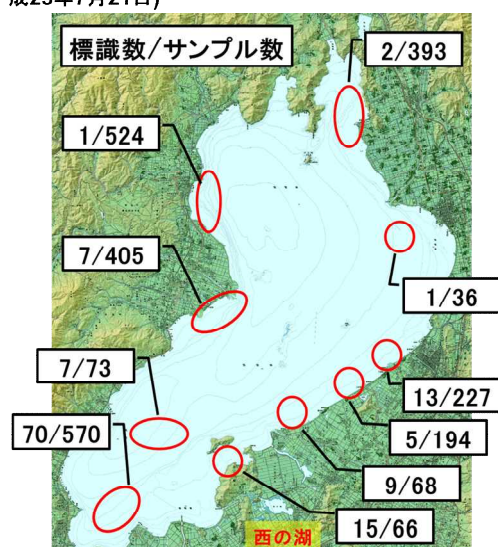


図4 刺網で漁獲された西の湖水田由来のホンモロコ当歳魚の分布状況